

# AMDAの挑戦

>20<

相互扶助の世界  
SOU-GO-FU-JO

## 阪神大震災から

「こんにちは」。午  
後4時過ぎ、高校生の元  
気な声がAMDA本部に  
響く。昨年9月に発足し  
たAMDA高校生会は多  
高校2年、山崎将臣君

忙なスタッフを支える貴  
重な戦力だ。

掃除や新聞の切り抜

(17)が救護物資の仕方  
けに岡山空港へ駆け付  
けたのをきっかけに、  
メンバーは年々増加。  
現在、10人が週2回程  
度通う。

「どうせ家からぶら

してゐるなら、というワ  
りです」。サッカー部の練

習後に訪れる同校2年、

岡田光史君(16)には気

負いは全くない。それで

も今年3月には約2週

校で旧ユーゴの窮状を訴  
え、2-3枚のタオルを  
集めた。4月から加わっ  
た同校2年、矢吹友理さ  
ん(17)は「井戸端会議  
のような雰囲気が大好  
き」と話す。

そんな高校生によるポ  
ランティアの輪はさらに  
広がろうとしている。今  
月11日には岡山大安寺、  
岡山一宮など地元5校の  
生徒会長ら約20人が意見  
交換会を開き、「ボラン  
ティア高校生会」を設立  
した。

呼びかけ人は、「ボラ  
ンティア活動の推進」を  
公約に掲げ、生徒会長に  
選ばれた県立岡山大安寺  
高校3年、松嶋文代さん  
(17)。2月の中国・雲  
南省大地震では学校で募  
金活動を実施。集まった  
金をAMDAに寄付した  
際、岡田君たちの存在を

知って立ち上がった。「み  
んなが自然体で取り組ん  
でいることに感心した」  
という。

意見交換会では、医療  
救済のため雲南省入りし  
た岡山大医学部留學生、  
汪達松さんが被害状況を  
報告。「1000円でレン  
ガ10個、300万円あれば  
小学校ができる」と聞  
き、倒壊した学校の再建  
プロジェクトに協力する

# 貴重な戦力、高校生

ことを決めた。

学校間を超えたネット

ワークの広がりに、AM

DAスタッフの田代邦子

さんは『やらされている』

という意識でボランティア

はできない。自主的に

取り組めば、彼らにとっ

てボランティアは社会参

加の第一歩になるはず。」

と期待を寄せる。  
【一色 昭宏、つづく】



あて名書きをするAMDA高校生会のメンバ  
ー。スタッフの活動を影で支えている